

きょうも おもてなし 日和



川崎美紀の SMILE通信

ハラスメントの話題に事欠かない毎日です。よくもここまで次から次へと出てくるものと、感心します。が、ハラスメントを知れば、学べば、当然の状況だとも思えます。

ハラスメントは英語で書くと「harassment」で、一般的には「苦しめる」「悩ませる」と訳されます。そこから発展して、「いじめ」「迷惑行為」「嫌がらせ」を「ハラスメント」と日本では呼んでいます。

年齢・性別を大声で連呼するマラソン大会

この夏、あるランニングクラブに

入会し、定期的に仲間と練習するようになりました。走歴は結構長く、初めて出た大会が2003年のホノルルマラソンです。

その後、2007年に東京マラソンが新設されました。それを知った途端にむくむくと走りたい心が湧いてきて、たまたまその第1回目に当選したこともあり、そこから定期的に走り始めました。

スポーツの世界には、その性質からパワハラ傾向があります。セクハラといえるかもしれません。

例えばマラソン大会にエントリーすると、開催日の1週間くらい前にハガキが届きます。そのハガキ、エ

骨子策定を担当した元労働省のご担当もいて、実際の現場の様子をかなり生々しく話してくださいました。

セクハラやパワハラに加えて、マタハラ（マタニティハラスメント＝妊娠・出産・育児休業・介護休業等に関するハラスメント）がすでに立派に3本目の柱になっていることにも驚きました。

「新卒入社」「日本人」「男性」「正社員」「時間的・場所的制約がなく働ける人」を中心としてきた職場運営では、もはや現状には全く合っていないですね。

「中途入社も」「日本人以外も、外国人も」「女性も、LGBTも」「非正規社員も」「時間的・場所的に制約ありの人も」、ともに働く社会にもうすでになっているわけですから、画一的な運営ではそこそこに歪みが現れるのは当然です。

ハラスメントに厳しい最高裁、企業責任も追及

LGBTは、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーなど性的マイノリティーを表す一般的な総称で、8%が該当するという調査があります。8%は、日本での左利きの人の割合や血液型がAB型の人の割合と同じです。

セクハラとマタハラはあります

が、パワハラは、実はまだ明確な定義がなく、抛りどころとなる法律もない状態です。

厚生労働省の「職場のいじめ・いやがらせ問題に関する円卓会議」のワーキンググループでの報告があります。①優位性を背景に、②業務の適正な範囲を超えて、③精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を害すること、です。

職場の優位性とは、上司から部下のみならず、先輩・後輩間、同僚間、さらには部下から上司への行為と「さまざまな優位性」が含まれます。

例として、ITスキルの優位性がある年下がパソコンの苦手な年長者に対して「エクセルもできないんですか？」と言うのも、パワハラだと説明がありました。単純に上下関係だけが優位性ではない、知識や技術などの優位性もあるということです。

裁判の判例からも学びます。全体の傾向としては、ハラスメントに対して、特に最高裁は一段と厳しい態度で臨む傾向が強くなってきています。個人の責任だけではなく、企業の責任も併せて問われる判例が多くなっていることを知りました。

企業として、「何もなかった」ことに対して課される慰謝料も認められはじめています。



イラスト★ささきさとみ (http://blog.goo.ne.jp/satomi343)

Vol.17 ハラスメントを知る、学ぶ

エントリーカードを持って行き、受付をし、ゼッケンをもらいます。

私のようなマラソン人口の底辺を支える市民ランナーでも、大会に出れば競技ですからタイムを競います。上位入賞者には賞金や景品が出ることもあります。

エントリーは男女別・年齢別の10程度のカテゴリーに分かれていて、そのカテゴリーでの順位もエリートランナー（早い人）には重要です。

ゼッケンをもらうときに、なんとも言えないハラスメント的な状況があります。受付では「40代、オンナ、12345番～」と私のハガキの内容を大きな声で読み上げて、ゼッケンを探す係に伝えます。

一般社会では、個人情報だといって必要以上に守られている年齢が、

ここでは驚くほど明け透けです。

数年前のある大会では、その係の人があまりにも大きな声で何度も叫ぶので、「そんなに何度も40、40と言わないでください、恥ずかしいです」とお願いしたことがありました。

そういうと、「あっ！」と言って私の顔をまじまじと眺め、「ああ、そうか」と少し改めてくれました。いままで、こんなことを言った人はいなかったのかもしれませんが。

レベルは全く違いますが、オリンピック出場選手名鑑を見たときも驚きました。柔道やレスリングのように、体重別がある種目の選手の体重が載っているのはわかりますが、そうではない選手も全員の身長体重が書かれていました。

超一流選手は、こんなことでは「悩ませられ」ないのでしょうか。でも、このあたりにハラスメントの隠された芽があるようにも思います。

画一的な職場運営による歪みの現れ

先日、ハラスメント防止コンサルタント養成講座を受講しました。

東京で100名、大阪で100名定員の講座、東京は満席で土日2日間、朝から夕方までみっちりでしたが、これを受けただけでは認定試験には合格できそうにありません。しっかり勉強しようと思っるところです。

講師の先生方はそれぞれの分野のエキスパートで、実際の裁判に立ち会っている弁護士もいれば、法令の